



第14回給水装置に関する規格専門委員会（9月25日）

水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗料塗装方法（JWWA K 157）において、水道用塗覆装鋼管類を対象に、塗膜を厚膜化する規定などを追加する内容について、前回に引き続き、規格改正についての審議を行った。

なお、委員会でまとめた規格改正案については、公開縦覧を行い、11月開催の第172回工務常設調査委員会に諮る予定である。

第70回水道 GLP 認定委員会（9月25日）

水道 GLP 認定について、認定維持検査機関として福井市企業局（認定番号：JWWA-GLP 067）が、更新後の認定維持検査機関として（社）愛知県薬剤師会（認定番号：JWWA-GLP 014）、名古屋市上下水道局（認定番号：JWWA-GLP 015）が、それぞれ審議され決定された。

第910回会誌編集委員会（9月25日）

本誌2月号の編集方針、投稿原稿の審査並びに水道協会雑誌の編集企画について審議した。

水道 GLP 認定証授与式（10月5日）

水道 GLP 認定委員会で認定が決定した千葉県水道局水質センター（認定番号：JWWA-GLP088）の認定証授与式を日本水道協会専務理事室において行った。



第87回検査事業委員会（10月10日）

はじめに、報告事項①第86回検査事業委員会議事録、②平成23年度検査事業決算見込み及び平成25年度検査事業予算案については、事務局より説明を行了承された。

次に、議題①水道用ステンレス鋼鋼管検査施行要項の改正と、②水道用ステンレス鋼鋼管継手検査施行要項の改正については、軽微な加筆修正箇所があり、後日、書面の差し換えを行うことで了承された。

議題③国産ラセン管(株)の検査の一時停止処分期間の満了及びその後の対応については、9月29日で6ヵ月の一時停止処分期間が満了となった旨を報告し了承された。なお、検査再開に向けて9月24日に検査部によるフォローアップ審査を行った結果、検査工場としての要件を満たさない事項が確認されたため、同社からの検査申し込みは、現在保留としており、10月24日に再審査を実施し、品質管理体制及び検査体制が整っていることを確認することになっているが、万が一不備があれば検査工場の取り消しもあり得ることも併せて了承された。



第182回常任理事会（10月16日）

三島旭川市水道事業管理者から総会開催地代表挨拶の後、尾崎専務理事が議長となり議案の審議に入った。第1号議案「日本水道協会第81回総会の運営」、第2号議案「全国会議の開催地」について、それぞれ事務局より配付資料に基づき詳細な説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。また、全国会議開催地に内定した降矢郡山市水道事業管理者より歓迎の挨拶があった。



第81回総会（10月17日～19日 於：旭川大雪アリーナ）

第1日目（10月17日）

開会式においては、開催地代表として西川旭川市長、日本水道協会を代表して尾崎専務理事から挨拶があり、次いで厚生労働大臣政務官衆議院議員 糸川正晃氏、総務大臣（代理：宮澤自治財政局公営企業経営室長）、北海道知事（代理：伊藤環境生活部長）、三井旭川市議会議長、幡掛日本水道工業団体連合会会長から来賓祝辞があった。



総会会場：旭川大雪アリーナ



開会式



日本水道工業団体連合会水道展



歓迎挨拶：
西川旭川市長



本協会代表挨拶：
尾崎専務理事



祝辞：糸川厚生労働
大臣政務官



総務大臣祝辞：
宮澤自治財政局公営企業
経営室長



北海道知事祝辞：
伊藤環境生活部長



祝辞：三井旭川市
議会議長



祝辞：幡掛日本水道
工業団体連合会会長



議長：三島旭川市
水道事業管理者



事務常設調査委員長報告：
木村大阪市水道局総務部長



工務常設調査委員長報告：
林横浜市水道局担当理事



衛生常設調査委員長報告：
寺嶋大阪市水道局技術監



名誉会員挨拶：
菊地名誉会員



名誉会員挨拶：
堀内名誉会員



名誉会員挨拶：
丹保名誉会員



監査報告：内藤監事



次期全国会議開催地挨拶：
降矢郡山市水道事業管理者



厚生労働大臣表彰



日本水道協会会長表彰

続いて表彰式が行われ、はじめに厚生労働大臣表彰として糸川厚生労働大臣政務官より木村英世氏外71名の受章者に対し表彰状と記念品が贈られた。これに対して受章者を代表して、吉田建四郎氏より謝辞が述べられた。

続いて日本水道協会会長表彰が行われ、尾崎専務理事から功労賞として今井茂樹氏外8名、特別賞として門馬洋氏外90名、有効賞として牛窪俊之氏外6名、勤続賞として福田勝氏他652名に対して表彰状と記念品が贈られた。これに対して全会長表彰受賞者を代表し、渡邊滋夫氏から謝辞が述べられた。

表彰式の後、定款の定めにより開催地の正会員代表として三島旭川市水道事業管理者が議長となり議事に入った。

会務報告として、事務局より平成23年度本協会事業の活動状況について、配布資料に基づく詳細な説明があった。

続いて、常設調査委員長報告として、事務常設調査委員長報告が木村大阪市水道局総務部長より、工務常設調査委員長報告が林横浜市水道局担当理事より、衛生常設調査委員長報告が寺嶋大阪市水道局技術監より、それぞれ報告があった。

昼食休憩後、議案の審議に入り、第1号議案「日本水道協会名誉会員の承認について」事務局より報告の後、原案のとおり菊地俊三氏、堀内厚生氏、丹保憲仁氏を名誉会員に承認することを決定し、尾崎専務理事より名誉会員推戴状並びに名誉会員徽章を授与した。また、第2号議案「平成23年度日本水道協会会計決算の認定」、第3号議案「国際交流基金特別会計及び研究開発基金特別会計の廃止並びに公益事業推進基金の設置」、第4号議案「平成25年度日本水道協会会計予算（本部分）」、第5号議案「公益社団法人移行に伴う規程類の制定」、第6号議案「運営会議委員の選任」について、事務局より提案資料に基づく詳細な説明があり、慎重審議の結果、原案のとおり決定した。なお、第2号議案については、事務局の説明に続き監事を代表して内藤重治氏から監査報告があった。

休憩時間の後、会員提出問題討議に入り、東日本大震災関係として、問題1「東日本大震災における水道施設の復旧・再構築に対する財政支援の強化・創設について」、問題2「放射性物質に係る対応の推進及び東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故を原因とする損害賠償について」、問題3「水道事業における電力確保対策等について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、補助関係として、問題4「水道事業に対する財政支援の拡充及び補助要件の緩和について」、問題5「水道施設の再構築事業等に対する新たな財政支援体制の確立について」、問題6「再生可能エネルギー施設の導入促進について」、問題7「簡易水道事業統合に対する財政支援について」、問題8「地域自主戦略交付金（一括交付金）の水道事業会計への直接交付及び制度設計について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

続いて、起債・繰出及び公営企業会計関係として、問題9「起債融資条件の改善及び地方公営企業繰出制度の拡充等について」、問題10「公営企業借換債制度及び繰上償還制度の拡

充・条件緩和について」、問題11「地方公営企業会計制度の改正に係る各種支援及び制度の見直しについて」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、災害対策関係として、問題12「水道施設の震災対策等に対する行財政支援について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

第2日目（10月18日（木））

前日に引き続き会員提出問題の討議が行われ、水源関係として、問題13「ダム等の水源施設の開発促進及び取水地点変更認可の要件見直しについて」、問題14「水源の異なる水系間における利水について」、水質関係として、問題15「水道水源における水質保全対策及び水質事故の発生防止の強化について」、その他として、問題16「地下水利用等による専用水道に係る法整備及び対応について」、問題17「管理の不適正な貯水槽水道の改善を促進する制度の確立について」、問題18「配水管の耐用年数の見直しについて」、問題19「指定給水装置工事事業者の登録更新制度の創設について」、問題20「計量法による特定計量器（水道メーター）の検定有効期間延長について」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

また、会員提出問題討議の終了時会場より、民間企業の持つ経営効率のノウハウを最大限に活用するために、公民連携の一層の推進について検討をして欲しい旨の要望があった。

続いて行政説明として、石飛厚生労働省健康局水道課長から、運営基盤強化策や水道耐震化推進プロジェクト等について説明があるとともに、宮澤総務省自治財政局公営企業経営室長から、水道事業における地方財政措置や地方公営企業会計制度等について説明があった。

次に、公益社団法人への移行を機に、現行の全国総会における会員提出問題討議や会長表彰等と、例年5月に開催してきた全国水道研究発表会を、併せて秋季に開催することとなる「全国会議」の開催地について、第182回常任理事会に諮った結果、郡山市と内定をいただいていること等を事務局から報告し、報告のとおり満場一致で郡山市に決定した。続いて、全国会議開催地を代表して降矢郡山市水道事業管理者より挨拶があった。

続いて閉会式に入り、日本水道協会を代表して尾崎専務理事より挨拶があった。

なお、午後には、「伝えるのは命の輝き（講師：坂東元氏 旭川市動物園園長）」と題した特別講演を開催した。また、休憩後、「水道の持続発展に向けて一今、水道事業管理者は何をすべきか」をテーマに総会シンポジウムを開催した（速記録は本誌2月号掲載予定）。



特別講演：坂東元氏「伝えるのは命の輝き」



総会シンポジウム：「水道の持続発展に向けて
—今、水道事業管理者は何をすべきか—」

第3日目（10月19日（金））

事務局設定3コースに分かれ、旭川市の水道施設等を視察した。